

物語と町をつなぐサイドストーリー 物語のある旅

人が出会う町から物語が生まれ、また、物語が町に新しいドラマをもたらすこともあります。
エピソードを迎えれば、町の違った一面が見えてきます。

郷愁を誘うローカル鉄道の旅 小湊鐵道沿線 (千葉県市原市・大多喜町)



JR内房線・小湊鐵道五井駅から小湊鐵道で所要56～60分で月崎駅 問合せ ☎0436-23-9755 (市原市観光振興課)

1.月崎駅の2つ先、養老溪谷駅から小湊バス(粟又の滝行き)に乗り、養老溪谷へ行くのもおすすめ。川沿いには遊歩道が整備されている 2.懐かしい汽笛を響かせ進む「里山トロッコ列車」。機関車を先頭に、窓ガラスのない展望車と窓付き・エアコン付きの車両を2両ずつ連結 3.初夏の小湊鐵道月崎駅。春には駅周辺に菜の花と桜の花が咲く

瑞々しい緑の溪谷や素朴な農村風景が美しい映画「夏美のホタル」。中心となる舞台は、市原市五井駅から大多喜町の上総中野駅まで約39kmを走る小湊鐵道沿線だ。小湊鐵道では昨年からは「里山トロッコ列車」を運転。開放感あふれる列車で、のんびり田園風景を楽しめる。

映画で印象的な小さな無人駅は月崎駅。駅舎近くには、仏師のアトリエとして登場する小屋「森ラジオステーション」がある。「中房総国際芸術祭いちばらアート×ミックス2014」で制作された木村崇人氏の作品で、小湊鐵道のかつての詰所小屋を森に見立てたもの。今年3月に公開された映画「星が丘ワンダーランド」の舞台にもなった。

小湊鐵道の南側の終点、上総中野駅から車で10分ほどのところには、映画の中で主人公が滞在する商店「たけ屋」の舞台となった角屋商店があり、この夏期間限定で公開予定(7月下旬～8月下旬の土・日曜、祝日の10～15時。問合せ ☎0470-18212111(大多喜町総務課))。また、昨年12月の高速バス(大多喜～羽田空港・品川線)開通を記念して、大多喜では「ホテルナイト」も開催する。都心から気軽にホテルに会いに行ける。



苔と山野草で覆われた小さな小屋「森ラジオステーション」

小湊鐵道 里山トロッコ列車

☎0436-21-6771(小湊鐵道鐵道部運輸課) ■区間:上総牛久駅～里見駅～養老溪谷駅 ■運転日:12月23日までの金・土・日曜、祝日(6月17日、9月16日、12月16日を除く)、7月21日～8月29日は月、木曜も運転 ■トロッコ料金:片道一律500円(運賃別) ■予約方法:専用受付電話☎0436-23-5584(10～16時)で乗車日の1ヵ月前から2日前まで予約受付。HPからもネット予約可能 www.kominato.co.jp/satoyamatorocco/index.html

大多喜 ホテルナイト

■期間:6月10～19日(雨天は中止の場合あり) ■発着:品川ゲース3階高速バスのりば16時15分発、大多喜到着後現地バスに乗り換え、22時10分品川着 ■予約・問合せ:☎0470-80-1146(大多喜町観光協会) ■定員:25名(先着順)

森ラジオステーション

☎0436-50-1160(中房総国際芸術祭いちばらアート×ミックス実行委員会事務局) 千葉県市原市月崎539 ☉外観は常時鑑賞可能。内観は毎月第3日曜午前及び、不定期に鑑賞可能 ④無休 ⑤無料 小湊鐵道月崎駅から徒歩すぐ

物語は
この映画から

父との思い出の地で出会ったのは—— 『夏美のホタル』

主人公の夏美(有村架純)は写真学校に通う学生。同じ学校に通う恋人もいるし、充実した学生生活を送っているように見えるのだが、夏美の内面は思うように写真が撮れない悩みや恋人との関係の齟齬など、焦燥感が渦巻いている。そんな夏美はある日、日常から逃れるように古いバイクにまたがり、千葉県の小さな集落を走るのだった。この古いバイクは父親の形見で、夏美の心の支えなのである。雑木林と竹林と小さな川が流れるだけの、何の変哲もない集落で夏美が出会ったのは通称“地藏さん”と呼ばれる身体が不自由な中年男(光石研)と、その母親のヤスばあさん(吉行和子)だった。地藏さんの浮かべる不思議な微笑みに夏美は惹かれ、この表情を写真に定着しようと決心する。こうして夏美の居候生活が始まった。野草や川の幸による田舎料理、人なつこい子供たち、そして意固地な仏師など、都会とはまるで違う環境に身を置きながら夏美は知らず知らずのうちに成長していく。



■6月11日ロードショー
■出演:有村架純、工藤阿須加、小林薫、光石研、吉行和子ほか ■原作:森沢明夫「夏美のホタル」 ■監督:廣木隆一 ■配給:イオンエンターテイメント natsumi-hotaru.com

©2016「夏美のホタル」製作委員会